

コンポーネントプロダクツ



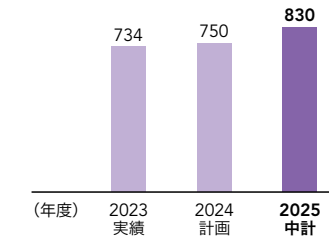
執行役員 コンポーネント
プロダクツ事業部長
井上 崇

事業部長メッセージ

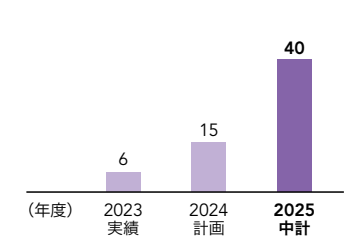
センシング、AI、通信、出力をコア技術としたOKIのプロダクトを企画・製造しており、グローバルに展開する自社販路を通して国内外のお客様へ広く販売しています。

タフネス・省スペースを強みとしたLEDプリンター、ビジネスホンやコールセンター向けシステムといったビジネスコミュニケーション向けのプロダクト、センシングやAIを活用してセンサーネットワークを実現するエッジデバイスを提供しています。OKIのソリューション事業で強みとなる競争力のあるプロダクトを社内の他事業向けに供給する役割を果たすと同時に、パートナー向けにも広く販売しており、特にエッジデバイスについては、世界的に成長が期待されているインフラモニタリング市場向けに、プリンターの販売拠点を活用した海外展開も積極的に進めています。

売上高 (億円)



営業利益 (億円)



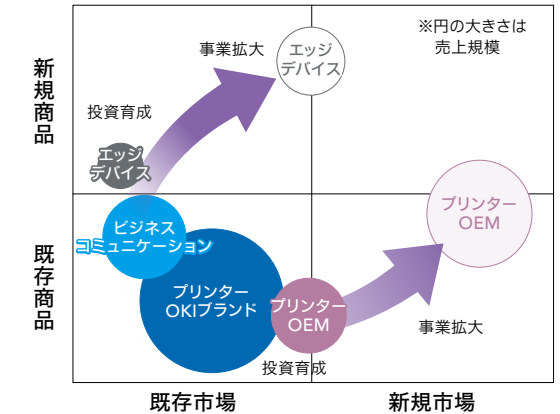
事業概要

プリンターおよびビジネスコミュニケーションの市場は、全体としては成熟市場であり、今後は微減傾向となるものの、プリンター市場では各社開発費の見直しによる負担軽減が進められており、OKIの強みであるプリンターエンジンのOEM提供や共同開発の機会が増加傾向にあります。また、エッジデバイスにおいては、カーボンニュートラルやインフラモニタリングの市場の世界的な拡大が予測されており、OKIの特長である省電力、無線技術、耐環境性が活かせることから、今後の販売は伸びていくものと見込んでいます。



事業方針

中期経営計画2025では、主軸となる既存2事業領域(右図「プリンターOKIブランド」「ビジネスコミュニケーション」)での商品ラインアップの見直し、人員再配置、開発投資の効率化による構造改革を推し進め、利益の安定化を図ります。そのうえで、注力領域に対しては積極投資を行い、エッジデバイス事業およびプリンターOEM事業を育成することにより、2031年度に売上高1,000億円、営業利益率7%を目指します。



事業環境の認識

機会	<ul style="list-style-type: none"> 今後市場が縮小していく成熟市場(売上規模縮小)で各社の開発投資が重荷となるなか、OKIが強みとするプリンターエンジンのOEMビジネス機会が拡大 インフラ老朽化、自然災害激甚化、環境保全といった社会課題を解決するインフラモニタリングやカーボンニュートラルなどの環境貢献商品へのニーズの拡大
脅威	<ul style="list-style-type: none"> プリンターおよびビジネスコミュニケーション市場の成熟化による規模縮小の進行 環境、セキュリティ、人権などの規制強化による対応コスト負担増大

事業の強み、課題

強み	<ul style="list-style-type: none"> プリンターOEMビジネス拡大における大手パートナー企業との協業実績 プリンター事業が持つグローバル販売拠点のアセット プリンター開発で培われたLED、タフネス、省スペースを実現する技術力 ビジネスホンや無線端末の開発で培われた通信技術、および周波数解析を応用したセンサー技術
課題への対応	<ul style="list-style-type: none"> プリンターおよびビジネスコミュニケーション事業の構造改革継続による収益力向上 新たなOEMビジネスパートナーの獲得 強みのある技術を活かした特長ある商品開発による環境保全、災害対策などの新市場への参入

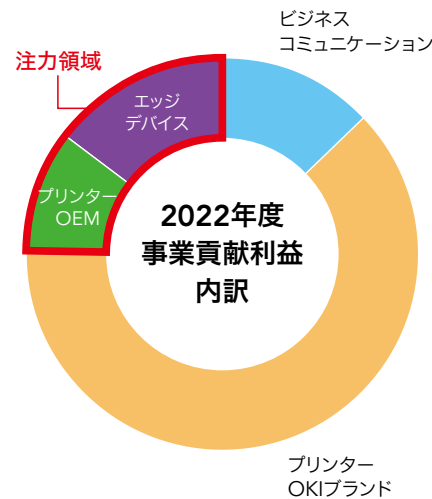
コンポーネントプロダクツ

中期経営計画2025 (成長への舵切り1st Stage)

プリンターは、流通・物流・薬剤などの印刷需要の高い市場をターゲットに今後も販売拡大を進めます。また、タフネス・省スペース・シンプル構造（メンテナンスのしやすさ）を特長としたOKIの強みを武器に、OEM提供や他社との共同開発も進め、市場の安定ポジション確保を狙います。

ビジネスコミュニケーションは、Web会議ツールが多用されるオフィス環境から、コミュニケーションが不可欠な現場や顧客接点向けのコミュニケーションへと機能を強化することで、新たなニーズ掘り起こしと用途拡大を図ります。

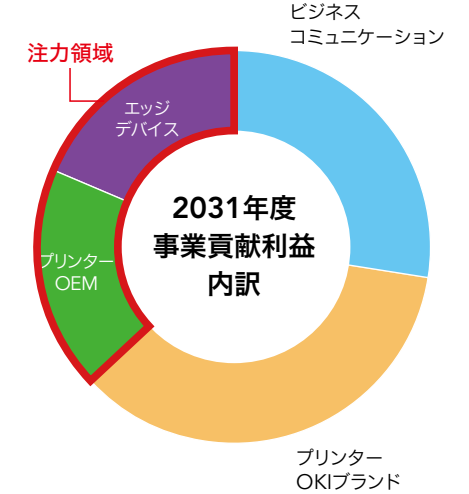
エッジデバイスは、インフラ市場で評価の高い電源レス・省電力技術の完成度を高めると同時に、商品ラインアップを強化し、さらにプリンター事業の販売拠点を活用した海外展開も推進していきます。



2031年の目指す姿 (成長への舵切り2nd Stage以降)

市場の縮小が進むプリンター事業とビジネスコミュニケーション事業は、商品ラインアップの見直しを行い、固定費のスリム化を進めることで収益力強化を図り、安定事業化を進めます。

一方で将来性の期待できるエッジデバイスについては投資を拡大し、事業の次の柱へと育てていきます。鉄道をはじめ、道路、電力などの社会を支えるインフラの安全性確保や、河川の氾濫や土砂崩れなどの災害から人命を守るための遠隔モニタリング機能の提供など、社会に役立つ商品をつくり出し、市場へ供給していく役割を果たします。それにより、商品を提供する立場で社会の大丈夫をつくっていきます。



TOPICS 価値創造マテリアリティ | 安心・便利な社会インフラ

インフラモニタリング市場は昨今の自然災害の増加により、世界的にも市場拡大が見込まれ、CAGR10%以上で規模拡大が進むと予測されています。

エッジデバイス事業の主力商品と位置づけているゼロエネルギーIoTシリーズは、老朽化や激甚化する自然災害から社会インフラの安全と安心を確保するためのインフラモニタリング機能を提供します。小型の太陽光発電パネルで高い発電効率を実現し、さらに長期間稼働する省電

力機能を特長としており、地球環境の保全に配慮した環境貢献型商品です。加速度センサー、水位計、夜間でもクリアな画質を提供する高感度カメラのラインアップがあり、道路・橋などの構造物監視、河川や溜池などの水害監視などで活躍します。国内では、鉄道沿線の土砂崩れの検知、河川の洗堀による橋脚の傾き検知など、鉄道を安全に運行するための遠隔モニタリングの手段として導入が進みつつあり、海外でも2024年度からトルコ、インドネシアでモニタリング実証を開始します。

エッジデバイス ~ ゼロエネルギーIoTシリーズ ~



超音波水位計



高感度カメラ

利用シーンの例

橋梁・河川



- 危険水位
- 橋梁傾き

斜面・のり面



- 斜面変位
- 土砂災害

Webサイト「環境貢献商品」 <https://www.oki.com/jp/sustainability/eco/product/ecosolu.html>